

令和 4年 3月 日

二宮町長
村田 邦子 様

二宮町政策評価委員会
委員長 大田 博樹

二宮町総合戦略評価に係る意見書の提出について

このたび、「二宮町総合戦略」の評価に対し、二宮町政策評価委員会としての意見を「施策評価シート」のとおり、とりまとめました。

また、とりまとめに際し、本委員会において、さまざまな意見交換が行われましたので、「二宮町総合戦略評価について（意見）」として、別添のとおり、提出します。

ご一読のうえ、今後の「二宮町総合戦略」の推進に活用くださいますよう、お願い申し上げます。

二宮町総合戦略評価について（意見）

「第2期二宮町総合戦略」に係る取組の令和2年度の進捗について、町の内部評価を踏まえ、二宮町政策評価委員会として評価を行いました。9本の施策については、概ね順調であると評価できるものの、対応が求められる課題や改善を図る必要がある事項も見受けられました。それらの課題解決に向け、本委員会の意見を参考に今後の地方創生の推進に役立てていただければと思います。

各委員から様々な意見が出された中で、総論として、主に2点について、意見を述べさせていただきます。

1点目に、町民の理解をより深め、制度等の利用を促進するためには、町民の立場に立った、分かりやすい情報発信を強化することが重要です。

町の魅力や行政サービスの恩恵を享受するためには、幅広い年齢層がいつでも、誰でも簡単にほしい情報を入手できる仕組みが重要であり、広報紙やホームページはもちろんのこと、様々な広報媒体による情報発信を充実させる必要があります。また、情報の受け手となる町民等が、様々な情報を前向きに受け取るためには、まず、その情報のメリットを実感していただく必要があります。そのためには、実際の利用者の声や活動の内容といった具体的な事例を情報提供することで、町民がメリットを実感し、実際に利用したいというモチベーションに繋げることができると考えます。

2点目に、社会課題の解決にあたり、複数の課題と施策を融合して取り組むことで、成果を引き上げるような発想の転換が必要です。

課題解決のためには、現状と問題点をしっかりと把握し、原因を特定したうえで、それらの分析に対応した対策を行う必要があります。対策の対象として、施策に関連したモノや仕組みに着眼しがちになりますが、「視点を変える」こと、また「広く物事を捉える」ことで、課題をまとめて解決できる可能性があります。枠に囚われない発想や視点の転換で、解決策の選択肢を広げるような展開を期待しています。

最後に、今回、新型コロナウイルス感染症により様々な分野で大きく影響を受けた一方で、デジタル化が加速するなど、新しい価値観や可能性も創造されました。これまでの地方創生の取組みを踏まえつつも、新たな時代に柔軟に適応し、引き続き、持続可能なまちとして発展し続けるため、本戦略で掲げる取組を推進されるようお願いいたします。